

平成 29 年度 「ふくしまを知る連続講座」 報告

当館では県民の皆様の文化振興に寄与するため、「ふくしまを知る連続講座」を実施しています。ここでは今年度開催したものを簡単に紹介します。

第 1 回 「縄文土器から探る地域間交流」

講師：三浦武司氏（福島県文化財センター白河館 [まほろん] 専門学芸員）

開催日：平成 29 年 6 月 18 日（日）14：00～15：30 参加人数：55 名

縄文時代の土器は、基本的に煮炊き用の鍋と考えられる深鉢形が最も多く、時代や用途の多様化によって、盛り付けに使用されたとみられる浅鉢形や、口縁部に装飾的な突起がついたもの、動物や人の顔を表現したものなどさまざまな形が見られます。放射性炭素年代測定の値や土器の形、底の編み物の痕跡等から読み取ることのできる当時の地域間交流、縄文人の暮らし・食生活などについて解説していただきました。

*平成 29 年 6 月 2 日（金）から 7 月 5 日（水）にかけて当館展示コーナーで開催された、「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」（まほろん移動展示）の関連講座。

第 2 回 「現存数日本一！ ふくしまの算額の魅力」

講師：白岩信博氏（福島県和算研究保存会事務局長）

開催日：平成 29 年 7 月 30 日（日）14：00～15：30 参加人数：44 名

江戸時代に花開いた日本独自の数学「和算」は、武士の間に限らず町民や農民たちの間にも広まりました。その問題や解法を記して神社仏閣に奉納した額や絵馬を「算額」といいますが、算額の現存数は福島県が日本一、また田村市船引町にある安倍文殊菩薩堂の算額の大きさは全国一とのこと。県内で活躍した有名な和算家には、安藤有益や磯村吉徳、渡辺一、佐久間庸軒などがあります。そんな算額に秘められた魅力を、本講座としては初めてのワークショップ形式で解説していただきました。

第 3 回 「檜枝岐村文書の魅力～近世山村の景観と生業～」

講師：渡邊智裕氏（福島県歴史資料館副主幹）

開催日：平成 30 年 1 月 28 日（日）14：00～15：30 参加人数：40 名

檜枝岐村は平成 29 年に村政独立 100 周年を迎えました。村教育委員会より福島県歴史資料館に寄託されている「檜枝岐村文書」は、会津郡古町組檜枝岐村名主で沼田街道檜枝岐口留番所役であった星縫殿之助家の伝来文書です。講座で取り上げられたもののうち「檜枝岐村絵図」（文書 235）には沼田街道沿いに分布する家々の当主名が記されており、右上には村の明細が記されているなど、当時の概要を知ることができます。村の中心生業であった小羽板こばいたの生産と流通、白峯銀山しらぶをめぐる領有権の争いなどについても解説していただきました。

*平成 30 年 1 月 5 日（金）から 2 月 12 日（月）にかけて当館展示コーナーで開催された、「檜枝岐村文書の世界」（福島県歴史資料館移動展）の関連講座。

（地域資料チーム 二階堂 千紘）